

令和5年度 全国学力学習状況調査 <数学>

朝来中学校

I 【教科に関する調査】から

(1) 全体的な概要

- ・ 総じて全国の平均正答率をやや下回る問題がほとんどである。
- ・ 1や4、8-(2)は全国平均を上回っている。
- ・ 3や5、9-(1)は全国平均を大きく下回っている。
- ・ 記述式の問題である6-(3)、7-(2)、9-(1)は、無回答率が30%前後である。

(2) おおむね満足のできる内容

- ・ 自然数の意味を理解している。【1】
- ・ 数と整式の乗法の計算ができている。【2】
- ・ 反比例の意味を理解している。【4】
- ・ 事象を理想化・単純化して表したグラフを、事象に即して解釈することができる。【8-(2)】

(3) 課題

- ・ 空間における平面が一つに決まる条件の理解。【3】
- ・ 累積度数の意味の理解。相対度数との違いの理解。【5】
- ・ 問題解決の過程を振り返って、新しい問題を成り立たせることがらを見いだそうとする力。【6-(3)】
- ・ 複数のデータを比較し、判断する力。その理由を数学的な表現を用いて説明する力。【7-(2)】
- ・ 構想に基づいて証明する力。【9-(1)】

(4) 指導改善のポイント

本学年は、数学を苦手としていたり小学校の算数の時点でつまづいていたりする生徒が多くいる。これまでの学習の定着が薄く、積み上げが出来ていないままの単元もある。(分数の計算・図形の面積や体積・文章題の問題把握 など)一方で、学力が高かったり授業に意欲をもって参加することができたりする生徒もあり、少しずつ理解度が高まっているところもある。それにより、学力面と意欲面での差が大きくなる。

生徒同士の話し合いや教え合いは積極的に行える関係性であることや真面目に取り組む姿勢が十分にあることを活かし、指導をしていきたい。

(課題克服に向けて)

- 可視化することによるイメージの定着を図る。

数学は、算数に比べて、概念の話やイメージが大切となる部分が多い。関数や図形はもちろんだが、式の計算や方程式などの単元でも、仕組みや手順を可視化することによって、取り組んでいる内容を自分なりに落とし込めるようになる生徒も少なくないとする。デジタル教科書や教具の活用、

- 問題文を正確に読もうとする習慣をつけさせる。

数学の文章題でも、問題文が長いものが増えてきている。一方で、それを苦に感じ、解くことができない様子がある。数学の問題文を読むうえで、数字だけでなく、その数字が何を示しているのか、数字どうしがどのような関係にあるのかを把握する必要がある。授業で取り扱う際に、線や印をひくことやイメージを図・表だけでなく、イラストなどの形にして、生徒が自分なりに問題文を把握しやすい方法を探させるようにしていく。また、用語を正しく理解できていないことによる間違いもあるため、授業で出てきた用語の意味を確認する対話をしていくことも必要であると考え

- 自分の言葉で説明する機会の確保。

証明や説明はハードルが高くなってしまふ。感じたこと・気が付いたことを素直に言葉にできるような機会と環境が不足しているのかもしれない。いつも決まった相手だけでなく、話し合いをする相手を適度に変えながら話し合いの機会を設けることで、色々な表現方法と様々な視点を知ることにつながるのではないかと考える。

- 数学に対する苦手意識を減らす授業内容の検討。

本学年の生徒は、先入観の影響を大いに受けてしまふ。したがって、導入で身近なものや流行りなど織り交ぜたり生徒が感心・感動できる単元のつながりや用語の由来を伝えたりすることなど楽しさを感じられる工夫を考えていく。